

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500728

研究課題名（和文） 伝建地区の住まい・まち学習にみる地域住文化の伝承と世代間交流に関する研究

研究課題名（英文） Housing and town planning learning for the exchange of living culture and lifestyle in Japan's Preservation Districts

研究代表者

田中 勝（TANAKA MASARU）

山梨大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：70202174

研究成果の概要（和文）：全国の伝統的建造物群保存地区内の民家・町並みを対象に多様な住まい・まち学習の実態を明らかにした。旧与那国家住宅（沖縄県竹富島）及び高橋家住宅（青森県黒石市）のペーパークラフトを使った住まい・まち学習を北海道、青森県、沖縄県内の小学校、中学校、高校で実践した。伝建地区の民家や町並みは学校での住教育教材として有効であり、ペーパークラフトを使った体験型・参加型学習は地域の住文化伝承につながることを実証した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to investigate the various actual conditions of learning on housing and town planning in Japan's Preservation Districts for Groups of Historic Buildings. And, we verified the effect of paper craft which made traditional house as a model through several classes in school. We developed the paper craft which modeled traditional house in Okinawa pref. and Aomori pref. as a teaching material of home economics education. Housing and town planning education in Japan's Preservation Districts for Groups of Historic Buildings made more active the cultural exchanges and collaboration between generations.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 2010年度 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |
| 2011年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,300,000 | 990,000 | 4,290,000 |

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：伝建地区、住まい・まち学習、住文化、世代間交流、地方性・地域性

1. 研究開始当初の背景

子どもの住生活力育成は家庭科の重要な課題であり、自然環境と一体となって歴史的にすぐれた住環境や町並み・景観を有する伝建地区を対象とした住まい・まち学習は、地域の伝統や生活文化に学び、地域を再生し、自然と調和しながら豊かに暮らすための総

合的思考力や問題解決能力を育む可能性をもっている。同時に、地域の子どもから大人までが参加し、だれもが楽しく学べる住教育教材や学習プログラムを開発することが、学校教育や地域の住まい・まちづくりにおける大きな課題でもあった。

2. 研究の目的

全国 83 ヶ所の伝建地区を対象として、地域に根ざした住まい・まちづくりへの住み手の主体的参加と協働、季節感や伝統文化を大切にしたい住み方など子どもの住生活力の育成・向上、暮らしや生活文化を育む世代間交流の促進という3つの視点から、伝建地区における多様な住まい・まち学習の実態とその現代的意義を全国の比較調査より明らかにする。

3. 研究の方法

- (1) 住まい・まち学習の構想・実践については自治体の住宅マスタープラン策定報告書等を分析した。伝建地区の住まい・町並みの特徴や保存活動については町並み保存対策基礎調査報告書の収集・分析と共に、現地調査及び聞き取り調査を行った。
- (2) 伝建地区の住まい・まち学習の実態については、全国の伝建地区内または周辺の小・中・高校を対象にアンケート調査（郵送配布、FAX回収）を実施した。家庭科教員への聞き取り調査も行った。
- (3) 伝建地区の住まい・まち学習のためのペーパークラフト及び副読本開発については、気候・風土の異なる沖縄県と青森県を選定し、それぞれの伝建地区内の重要文化財である旧与那国家住宅（沖縄県竹富島）と高橋家住宅（青森県黒石市）をモデルに制作した。
- (4) ペーパークラフトを活用した住まい・まち学習の授業実践は北海道T小学校、同O小学校、青森県K小学校、沖縄県R小学校、同T小中学校、同Y高校、同K高校で行い、授業観察及び授業ワークシート等の分析により授業実践及び教材の評価を行った。

4. 研究成果

3年間の主な成果は次の通りである。

- (1) 伝建地区選定に係る基礎調査報告書及び関連文献を収集し、保存地区の民家・町並み特性等を把握した。
- (2) 沖縄県竹富島、同渡名喜島、高知県吉良川町、愛媛県内子町、大分県豆田町、岐阜県高山市、富山県高岡市等の伝建地区を対象に現地調査を行い、伝建地区の民家・町並みを題材とした総合的学習及び家庭科住領域の実践例やNPOによる町並み保存活動等を把握した。
- (3) 伝建地区の民家や町並みは生きた授業教材として学校での住まい・まち学習への活用が可能である。このため全国の伝建地区内またはその周辺にある小・中・高校計366校の家庭科教員等を対象にアンケート調査を実施し、家庭科住領域の授業内容、気候・風土に根ざした住まい学習への取り組み、教材

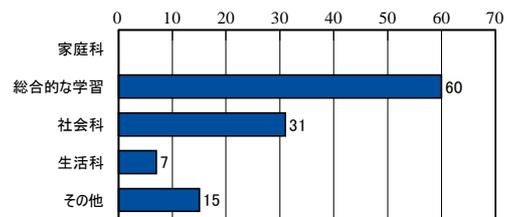


図1 伝建地区を対象とした授業実践を行った教科

ニーズ等を具体的に明らかにした。伝建地区を対象とした授業実践は家庭科では少なかったが、地域の気候・風土や住生活に根ざした住まい学習への家庭科教師の関心は高く、実践に移しているケースもあった。一方、社会科や総合的学習等の教科、及び学校行事において伝建地区を見学したり、自治体や教育委員会と連携して授業の題材として活用している例が多くみられた（図1）。

- (4) 全国の伝建地区の中から気候・風土や生活様式に対応して特徴的な民家形式や町並みを残している例として、沖縄県竹富島と青森県黒石市中町の2地区を取り上げ、各地区を代表する民家ペーパークラフトを開発した（写真1、図2）。具体的には、沖



写真1 旧与那国家住宅ペーパークラフト



写真2 旧与那国家住宅ペーパークラフトの副読本

縄県竹富島については国指定重要文化財・旧与那国家住宅を 1/75 の縮尺でペーパークラフトにした。また授業用副読本として『竹富島の民家・集落と旧与那国家住宅ー沖縄の気候・風土に根ざした快適な住まいー』（A 5 版、全 16 頁）を作成した（写真 2）。青森県黒石市中町については、国指定重要文化財・高橋家住宅を 1/100 の縮尺でペーパークラフトにした。授業用副読本として『高橋家住宅とこみせ通りの町並みー黒石市中町伝統的建造物群保存地区の民家・町並みー』（A 5 版、全 32 頁）を作成した。なお、後者の副読本では、子どもたちが高橋家住宅とこみせ通りへの理解を深められるよう全 10 問のクイズを設けた。

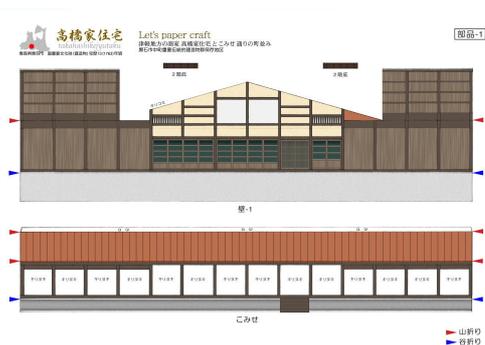


図 2 高橋家住宅ペーパークラフト（一部）

(5) 旧与那国家住宅ペーパークラフトを活用した授業実践を北海道 T 小学校と同 O 小学校で行った。自由研究課題として親子でペーパークラフトづくりに挑戦し、北海道とは異なる気候・風土に対応した沖縄の民家について学ぶことで、北海道の気候・風土に根ざした住みよい家について具体的に考えるための教材として有効なことを示した。

(6) 青森県 K 小学校では、旧与那国家住宅ペーパークラフトを使って 5 年社会の授業「くらしや自然を守る「沖縄の伝統的な家」」を実践した。授業では、教科書だけではなく、実物を立体的に表現したペーパークラフトを教材として提示することで、沖縄の家がなぜこのようなかたちになっているのか、また建物と周囲の環境との関係性を考えることにより、気候・風土にあわせて住まいや住み方を工夫してきたことを理解し、その内容を子ども自身の言葉で表現する力を培った。

(7) 沖縄県 R 小学校では図工の時間を使って旧与那国家住宅ペーパークラフトを組み立てた後、6 年家庭科のトピック授業「昔の家に住むとしたら」への展開を図った。沖縄の伝統的な民家である旧与那国家住宅に自分が住むとしたらどのようなリフォーム等が

必要になるか、模擬家族を設定して住み方を工夫していく題材設定が実現できた。

(8) 沖縄県 Y 高校では家庭総合の授業として旧与那国家住宅ペーパークラフトを使った授業実践を行った。生徒は、沖縄の伝統的な民家の特徴に気づき、身近な文化財をモデルにした模型づくりを通して沖縄の住文化を振り返ることができた。教師にとっても、ペーパークラフトを導入することにより、住領域の指導の困難性を払拭することができた。一方、沖縄県 K 高校の家庭科では、沖縄の伝統的な住まいをテーマとした学習プログラムを作成し、生徒 2 人 1 組で旧与那国家住宅ペーパークラフトを作成しながら、沖縄県の伝統的な住まいの特徴、現代住宅との違い等を体験的に学ぶ授業実践を行った。教師及び生徒の授業評価から、教科書や視聴覚教材では学べないことがペーパークラフトを使うことで学べるなど、体験型住教育教材としての意義を検証することができた。また、伝統文化や住まいづくりに対する生徒の興味・関心を高めることにより、生徒主体の授業展開への転換を図ることができた。

(9) 建築士が地域の住まい・まちづくり活動に積極的に関わるケースが増えていた。建築士の地域貢献活動にみる住まい・まち学習支援の全国調査結果より、地域に根ざした活動を長期に展開している例として青森県建築士会南黒支部みらいのまちづくり委員会を取りあげた。小学生を対象としたまちづくりコンテストの開催など、教育・人づくりをテーマに、こみせの保存と地域再生に向けたユニークな活動を展開していた。

(10) 青森県黒石市及び青森県建築士会南黒支部と協働し、秋のこみせ祭りにあわせて、地元小学生、保護者、建築士、大学教員、学生らによる高橋家住宅ペーパークラフトを使ったワークショップを開催した（写真 3）。



写真 3 高橋家住宅ペーパークラフトづくりのワークショップ

高橋家住宅の見学とペーパークラフトづくりを通して、高橋家住宅の歴史や内部空間構成、こみせの役割について具体的に学ぶことができた。また、黒石市K小学校の5年社会の授業では、前週のワークショップで組み立てた高橋家住宅ペーパークラフトを使って「高橋家住宅とこみせ」のひみつをさぐれ」という題材で授業を展開した。模型を使ったグループ別学習により、共に考え、また発表するワークショップ形式の授業を試みた。

(11)各地の実践は、学校だけでなく自治体、建築士会、地元住民等を巻き込んだ協働型の授業実践スタイルへとつながり、同時にそれは地域の気候・風土に対応した住まいづくりについて考えるのみならず、伝統的な民家や町並みを次世代に継承するための方策や地域再生を考えるアイデアを生み出すなど創造的な参加・体験活動となり、必然的に世代間の交流を育むことになった。

(12)伝建地区の民家をモデルとしたペーパークラフト及び副読本は、家庭科住領域の充実を図るために有効であることが学校や地域での授業実践例から確かめられた。

以上のように、本研究は子どもたちが住まいや住生活について楽しく学べる魅力的な教材開発を進めることに重点を置いた。また家庭科教員の住領域指導を支援することも目標とした。歴史的な民家にみる住生活や住まいづくりの価値を再評価し、これからの暮らしに役立たせる視点を育もうと、全国に広がる伝建地区の民家や町並みを対象としてペーパークラフトを使った授業の教材化を試みたのが本研究の成果である。伝建地区の民家・町並みを素材とした授業実践を学校教育現場や地域で積み重ねていくことは、地域の住文化の伝承と世代間の交流に大きく寄与することを実証することができた。

5. 主な発表論文等

[学会発表] (計1件)

- ①田中勝・藤田忍・曲田清維、建築士の地域貢献活動にみる住まい・まちづくり学習、全国の地域貢献活動団体を対象としたアンケート調査結果の分析、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1、2011年8月23日、早稲田大学

[その他]

- ①田中勝、伝建地区の住まい・まち学習にみる地域住文化の伝承と世代間交流に関する研究、平成21年度～平成23年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書、山梨大学田中研究室、pp.1～93、2012.3
- ②田中勝、高橋家住宅とこみせ通りの町並み

ー黒石市中町伝統的建造物群保存地区の民家・町並みー、平成22年度科学研究費補助金成果報告書(副読本)、山梨大学田中研究室、pp.1～32、2011.3

- ③田中勝、高橋家住宅ペーパークラフト、山梨大学田中研究室、2011.3

- ④田中勝：竹富島の民家・集落と旧与那国家住宅ー沖縄の気候・風土に根ざした快適な住まいー、平成21年度科学研究費補助金成果報告書(副読本)、山梨大学田中研究室、pp.1～32、2010.2

- ⑤田中勝、旧与那国家住宅ペーパークラフト、山梨大学田中研究室、2010.2

- ⑥琉球新報(朝刊)、2012.3.7、24面掲載

- ⑦津軽新報(朝刊)、2011.9.15、3面掲載

- ⑧陸奥新報(朝刊)、2011.9.13、19面掲載

- ⑨津軽新報(朝刊)、2011.9.2、1面掲載

- ⑩北海道新聞(朝刊)、2011.8.11、22面掲載

- ⑪日刊宗谷(朝刊)、2011.8.4、2面掲載

- ⑫津軽新報(朝刊)、2011.4.9、4面掲載

- ⑬広報くろいし、2011年3月1日号、2011.3

- ⑭津軽新報(朝刊)、2011.2.18、3面掲載

- ⑮陸奥新報(朝刊)、2011.2.17、17面掲載

- ⑯読売新聞(夕刊)、2011.2.17、7面掲載

- ⑰東奥日報(夕刊)、2011.2.16、7面掲載

- ⑱津軽新報(朝刊)、2011.2.11、2面掲載

- ⑲津軽新報(朝刊)、2011.1.28、2面掲載

- ⑳津軽新報(朝刊)、2010.4.11、4面掲載

- ㉑琉球新報(朝刊)、2009.7.19、27面掲載

- ㉒八重山日報(朝刊)、2009.7.4、3面掲載

- ㉓八重山毎日新聞(朝刊)、2009.7.4、11面

- ㉔広報たけとみちょう、2009年7月号、

2009.7.15

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 勝 (TANAKA MASARU)

山梨大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：70202174

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし